

## くまびょう

95号

NEWS

くまびょう  
NEWS2005年  
5月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター  
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

## 新臨床研修制度2年目を迎えて



研修部長

清川 哲志

必修化された研修制度が2年目を迎えました。研修医の方々はスーパーローテーションという新しいシステムで、これまでに内科、外科、麻酔科、救命救急での研修を修了しました。まさに指導医も研修医もより良い研修のために走りながら考えた1年間でした。

今感じることは、この研修制度に取り組むことで病院自体が大きく変わったということです。つまり研修医を育てようとスタッフが懸命に頑張りましたが、その努力は日常の医療レベルを向上することに繋がっています。例えば、各部門で研修医のために多くのカンファレンスを行いました。単に研修医教育のためではなく、スタッフ間の情報の共有やより綿密なチーム医療に貢献しました。また、研修医教育のために医療の安全性を考えることは、全てのスタッフにも必要なことで安全性の向上に貢献しました。本来、病院は、常に新しいスタッフを受け入れています。これを教育し、チームとして医療の質を担保し、さらに向上させなくてはなりません。研修医を受け入れて教育することはまさに病院にとって必須の機能であると思います。

一年過ぎて、最も驚かされるのは、学生から医師へと変身していく研修医の姿です。研修医の方々は、新しいシステムの中で幅広い経験を積んでいます。例えば内科系では各部門を経験するなかで70例から100例の

患者の治療を経験し、外科では20例から30例を担当し、麻酔科ではしっかりとした全身麻酔、呼吸管理を身につけています。1年間を通じて毎週救急外来を経験し、さまざまな急性期の症状を経験しました。私たちの頃の、指導方針もなく先輩の後について過ごした研修とは違い、医師の基礎作りには恵まれた環境での研修であると思います。ただし、スーパーローテーションで他種類の数多くの症例を経験するという事は、2年という期間では広く浅い研修になりやすいといえます。例えば内科を6ヶ月、外科を2ヶ月というのは期間として短いことは明らかです。ただし、この2年間で医師としてどの分野でも必須とされる臨床の基礎作りととらえ、プライマリーケアの実践を行い、ケースカンファレンスを行っていけば充実したものとする事ができます。新しい認識でカリキュラムを構成することが求められていますし、研修医の意識も、研修の期間で臨床の基礎作りを行い、その中で将来の専門性を選んでいこうとしています。この新制度により、新しい医師が作られ、将来の医療体制も大きく変革していくことが予想されます。

臨床研修を担当し、一番楽しんでいるのは自分であることを最近認識しました。研修医が患者さんに向かい、いろいろな困難を乗り越え、何かを身につける姿は同じ職業人として頼もしく、同じ思いを共有することは代え難い経験です。これから2年目の研修医と新しい17名の新研修医の方々と新たな一步を踏み出したいと思います。2年目には地域医療の研修として皆様方の職場で研修をお願いすることもあると思います。よろしくご支援のほどお願いいたします。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

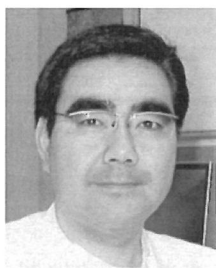
国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



## 国立病院機構熊本医療センターと医療連携

医療法人  
アクティブエイジング研究所  
小山内科クリニック

院長 小山 研一



昨年12月に城東町で小山内科クリニックを開業いたしました小山です。街中の新規開業ということでも厳しい状況の中、早くも4ヶ月が過ぎようとしています。開業にいたる発端は約4年ほど前にさかのぼります。これから迎える高齢化社会の中高齢者の方々が、健康で安心して生きがいを持った生活を送れる環境とは何かという思いからいろいろ模索しておりましたところ、聖路加国際病院の日野原重明先生のご紹介もあり、九州電力グループと新たな形の生活の場の提供を行おうというこ

とになり、九電跡地である現在の場所に医療が一体となった高齢者のための住居（グランガーデン熊本）を作ることになったのです。昨年12月に完成し、我々医療機関はその2階に居を構え、グランガーデンに入居されている方々の体、心のケアを中心に、また地域の方々に対してもオープンに一般診療を行っております。ただ、小さなクリニックですので、グランガーデンに住まわれている方や近隣の方々の緊急時に24時間対応することは難しいのが現実です。そのような状況で国立病院機構熊本医療センターと連携が取れることにより、私ども医療機関のみでなく、グランガーデン熊本に住まわれている方々または近隣の方々もとても安心しておられ、すでに何名かの方々がお世話になっております。

グランガーデン熊本にも一応介護フロアはありますが、生活介護程度の対応しか現時点ではできていません。そうなると急性期を過ぎて回復期リハビリの段階での受け入れができないため、回復期リハビリを行う医療施設に一度転院した後、グランガーデンへ戻るということになります。個人個人の状態によっては、うまく連絡を取り合うことで、リハビリもうまくできるようになると思います。今後医療連携の中にリハビリの指導、教育なども織り込んでいただける形で進んでいくと助かります。今後ともよろしく願いいたします。

## 国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

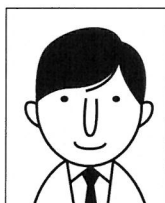
登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。

発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようお願い致します。

なお、写真は時間内であれば院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、外来駐車場にて駐車券をお取り頂き、医事0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

### 開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会  
熊 本 太 郎

平成17年1月1日交付  
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
3. この証を紛失又は破損したときは、速やかに再交付の手続きを行って下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

研 究

- J-WIND Trial (Japan Working Groups of Acute Myocardial Infarction for the Reduction of Necrotic Damage) (厚生労働省21世紀型医療開拓推進事業)
- J-CAD Study (Japanese Coronary Artery Disease Study) (日本心臓財団)
- 平成14年度循環器病研究委託 (14公-1) 循環器疾患の予防に向けての炎症性反応指標の応用
- 平成15年度循環器病研究委託 (15公-1) 循環器疾患における抗血栓療法の問題点と対策
- 平成16年度循環器病研究委託 (16公-5) 高齢者心不全の治療戦略に関する研究

2005年

診療科紹介 (20)

心臓血管センター (1)

循環器科



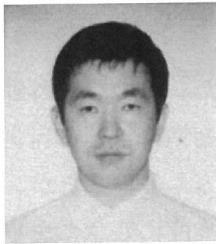
藤本 和輝

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション  
血管新生療法  
日本内科学会専門医  
日本内科学会指導医  
日本循環器学会専門医  
日本心血管カテーテルインターベンション学会指導医  
日本心血管カテーテル治療学会指導医  
ICD



宮尾 雄治

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション  
日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本循環器学会専門医



梶原 一郎

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション



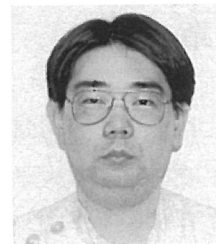
村上 和憲

循環器疾患一般  
日本東洋医学会専門医  
日本東洋医学会指導医



大庭 圭介

循環器疾患一般  
カテーテルインターベンション



新造 竜也

循環器疾患一般

特 色

平成17年4月1日から高添先生に代わり村上先生が、更に1名増員となり新造先生が赴任しました。また、ロータブレッター、埋め込み型徐細動器、両室ペースメーカーの施設認定も取得しました。当科では救急医療に特に力を入れており、急性心筋梗塞、急性心不全、ショック、心肺停止などの重症例に対しても、24時間365日対応出来る体制にあります。また、平成12年2月からモビルCCUが24時間運行可能となり、徐々に出勤回数が増加してきています。循環器科と心臓血管外科は、心臓血管センターとして共同で診療し、手術の検討は両者で行い、緊急手術にも迅速に対応しています。さらに、従来の循環器科の治療の他に、血管新生療法にも取り組み、現在までに7例施行し良好な結果を得ています。

- 日本内科学会教育病院
- 日本救急医学会認定医指定施設
- 日本心臓カテーテルインターベンション学会研修関連施設
- 日本循環器学会研修施設

実 績

平成16年 (1~12月)

入院患者数	943名	経皮的血管形成術	16件
平均在院日数	14.0日	ペースメーカー植え込み術	54件
心臓カテーテル検査	967件	血管新生療法	3件
経皮的冠動脈形成術	217件	モビルCCU	65件



## 新任職員紹介



総合医療センター

神経内科 医長

たわら さとる  
俵 哲

平成17年4月から神経内科に非常勤医として勤務しています俵哲です。昭和44年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学麻酔科、第一内科を経て、岡山・倉敷の川崎医科大学、宮崎医科大学にて内科・神経内科の臨床と研究に従事し、山鹿市立病院において神経内科を中心とした地域医療に携わってきました。この度、宮崎久義病院長のご高配により、外来診療を中心として

皆様とともに働かせていただけることになり、大変感謝しております。病院内外からのご紹介患者様は変化に富み、県医師会名簿を毎日手にしながらあらためて三次救急病院の役割の重要性、病診・病病連携の大切さをかみしめております。国立病院機構熊本医療センターは、病院長のご指導のもと、臨床面では、他の三次救急病院が、手術中で手が空かないからと断っても決して断らず引き受けてくれる病院という評価がなされており、研究面でも数多くの優れた業績が積み重ねられて発展の道を邁進中のように思われます。基本理念にありますように、最新の知識と技術をもって、患者様中心の医療の実践ができますように心掛けていきたいと思っております。各方面の先生方のご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



総合医療センター

内分泌・代謝内科

こ だま しょうこ  
児 玉 章 子

4月より内分泌・代謝内科勤務となりました児玉章子（こだましょうこ）と申します。平成9年熊本大学卒業、同年代謝内科入局、平成10年4月から1年間当院で内科研修医としてお世話になりました。そして熊本市民病院勤務後、代謝内科大学院生・研究生として

膵β細胞再生医療の研究を行いました。その間、外勤先で外来をする中で、生活習慣病は初期には殆ど自覚症状がなくきちんと治療を受けない方も多いことが、進行した合併症を持つ患者様に出会う度に残念に思うことでした。当院に勤務させていただくにあたり、ご紹介いただいた患者様が紹介元の先生にお返しした後も定期的に受診され、合併症発症を予防できるよう、お力になればと思っております。とは言うものの、まだまだ臨床能力を磨く必要があり、研修医時代にお世話になった病院に勤務させていただくことは大変心強く思っております。至らぬ点が多々あるかと存じますが、宜しくよろしくお願い申し上げます。



心臓血管センター

循環器科

むら しみ かず のり  
村 上 和 憲

平成17年4月1日より、心臓血管センター循環器科に勤務いたします村上と申します。

平成3年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学の第2内科（血液内科）および熊本地域医療センター（内科）にて研修し、その後は血液凝固学を専門にしています。

平成11年8月よりテキサス大学医学部ガルベトン校の麻酔科（集中治療部）で働いていました。平成16年1月末に帰国し、熊本大学医学部循環器内科に入局いたしました。もう一つは、趣味で昔から漢方（中医学）を勉強しています。熊大病院では、平成16年に不定愁訴を中心とした循環器漢方外来というのを新設しましたが、このたび国立病院機構熊本医療センターに異動となりましたので、漢方外来もこちらへ移転できればと勝手に考えています。患者様の満足と納得のいく診療をモットーに努力していきたいと思っております。皆様のご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 泌尿器科

せ した ひろ し  
瀬 下 博 志

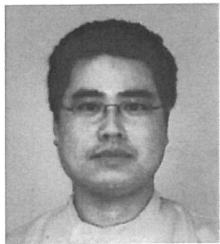
4月から泌尿器科医として勤務しています瀬下博志です。

平成6年熊本大学医学部卒業後、熊本大学泌尿器科に入局し熊本大学医学部附属病院に勤務。平成8年に

1年間集中治療部に出向ののち、平成9年からは泌尿器科大学院で4年間尿道平滑筋の研究をおこないました。その後、熊本大学医学部附属病院を経て平成14年より3年間荒尾市民病院に勤務し、この度、国立病院機構熊本医療センターでお世話になることとなりました。

県内トップクラスの救急患者数及び手術例数を誇る当院にて微力ながら患者様のお役に立てればと思っています。

また各方面の先生方の御指導、御鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 外科

まえ だ たけ はる  
前 田 健 晴

平成17年4月1日より外科に勤務することになりました前田健晴と申します。

平成7年に宮崎医科大学を卒業し、熊本大学医学部

第二外科に入局しました。その後、水俣市立総合医療センター、NTT九州病院、熊本大学医学部附属病院、上天草総合病院と勤務し、消化器外科、消化器内視鏡を中心に診療に携わってきました。

しかし、これだけ手術症例、救急患者さんの多い病院勤務は初めてですので、身が引き締まる思いと同時にこれまで以上に努力する覚悟しております。

まだまだ未熟者で先生方には何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご指導のほど、宜しく願い申し上げます。



## 産婦人科

さか ぐち いさお  
坂 口 勲

本年、4月より国立病院機構熊本医療センター産婦人科でお世話になることになりました坂口勲と申します。平成11年に福井医科大学を卒業し、熊本大学産科婦人科学教室に入局後、早いもので7年目を迎えます。昨年度まではウサギやラットに囲まれた甘い研究

を送っておりましたせいか、みるみる体が丸くなり、最近では久しく会わなかった患者さんに逆に体のことを気遣われております。運良く、国立病院機構熊本医療センターへは自動車通勤が不可ということで早速自転車を購入し、汗だくで毎日、ダイエットに励もうと目論んでおります。この4年間は真の臨床の間からは離れておりましたので周りの方々にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、三森産婦人科部長をはじめとし諸先生方の指導を仰ぎつつ、初心に立ち返り日々の仕事に没頭しようと考えております。

今後ともよろしくお願い致します。

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょう NEWS』編集室まで

最近のトピックス

ペインクリニックについて



麻酔科  
田尻 晃彦

帯状疱疹痛や帯状疱疹後神経痛のような神経因性疼痛に、本来無効といわれていた麻薬性鎮痛薬がけっこう効くことが最近分かってきました。リン酸コデインはモルヒネの10分の1くらいの力価をもつ麻薬ですが、昔から「咳止め」として使用されており、WHO除痛ラダーでは第二段階に位置する弱オピオイドで、がん性疼痛に対して頻用され、既に安全性が十分確認されています。当科で10名の患者にリン酸コデインを投与してみました。神経ブロックと同等かそれ以上に有効な印象を得ました。

図1に、リン酸コデインの内服のみで疼痛管理を行い、最終的に離脱できた3症例を示します。上にリン酸コデインの1日量を、下にVAS (visual analogue scale) の推移を示しました。開始からVASが著明に減少し、早いもので1週間、遅いものでも約5ヶ月でリ

ン酸コデインを離脱できました。初回量は咳止めとしても処方される程度の量であり、以後も増量の必要はありませんでした。

図2に、10症例のリン酸コデイン投与量と効果をまとめました。10例中7例が有効で、帯状疱疹発症初期の痛みから長期間経過した帯状疱疹後神経痛まで幅広く効果が認められることがわかりました。疼痛管理に難渋している症例では、有効例に比べて格段に多くの量を必要としており、突出痛の強い症例ではコントロールに苦慮する場合があります。1日量が450mgで初めて至適投与量に達した例もあり、個人差が大きいことがわかります。

しかし、通常2～3ヶ月の入院生活を患者に強いてきた従来の神経ブロック療法を主体とする治療法に比べれば、リン酸コデインの内服による疼痛治療では、日常生活を普通に送ることが可能です。副作用として、時に便秘、眠け、口渇などが出ますが軽くて済みます。麻薬に対する悪いイメージは杞憂です。

リン酸コデイン内服療法は安全で、副作用対策を充分に行いつつ至適投与量を探っていけば、発症早期はもちろん、帯状疱疹後神経痛に長年悩まされている患者のQOL向上に寄与する可能性があり、積極的に試みる価値があると考えています。

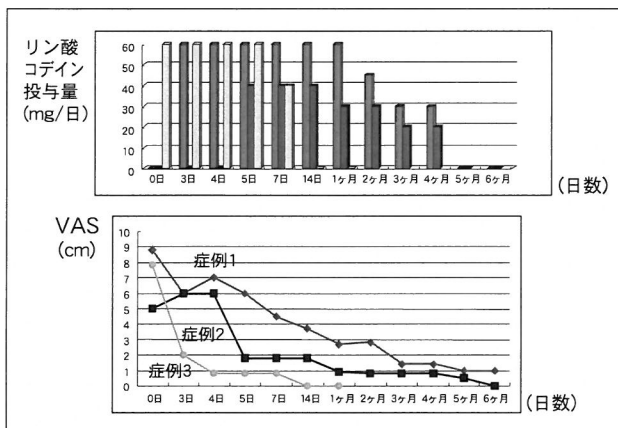


図1 リン酸コデインを順調に離脱できた3例

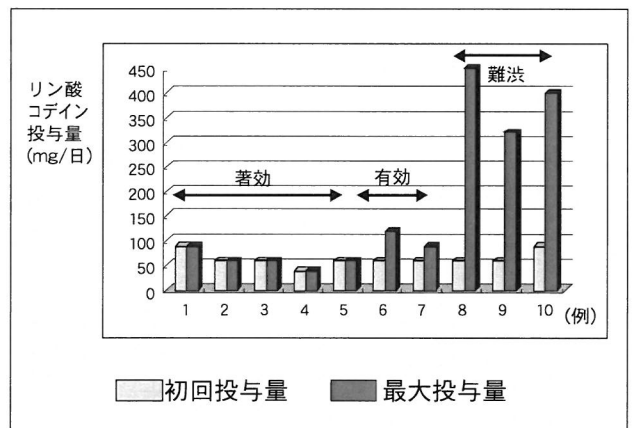


図2 リン酸コデイン投与量と効果

# 研修のご案内

## 第192回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年5月7日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「血管疾患の診断と治療」

座長 熊本市医師会 石原 章

1. 循環器内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝
2. 心臓血管外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一
3. 器材供覧 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

## 第76回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年5月16日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「最近経験した血液学的縦隔腫瘍の3例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液内科 日高 道弘

4. ミニレクチャー「当院救急外来における中毒疾患について」

国立病院機構熊本医療センター救命救急センター 吉岡 明子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

## 第12回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成17年5月17日（火）18：30～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 魚住クリニック院長 魚住 秀昭

### 主題：放射線治療の現況

国立病院機構熊本医療センター画像診断治療センター放射線科 富高 悦司

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

## 第76回 最新医学の知識講座（無料）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成17年5月18日（水）19：00～21：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本市医師会 村山 英一

熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科学教授 内野 誠

### 「遺伝性脳卒中」

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

## 第45回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年5月19日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 低血糖症対処法について—この1年間の低血糖症例から考える—

国立病院機構熊本医療センター 児玉 章子、市原 ゆかり、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三 東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線796

# 平成17年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修ホール	会議室	ほか
2日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
6日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
7日(土)	15:00~18:00 第192回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 「血管疾患の診断と治療」 1. 循環器内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝 2. 心臓血管外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一 3. 器材供覧 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝 他	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 石原 章	
9日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
10日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(水)	18:00~19:00 第24回くすりの勉強会(公開)	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
12日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
13日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
14日(土)	14:00~16:00 第181回 滅菌消毒法講座《会員制》 「滅菌の基礎」 国立病院機構熊本再春荘病院麻酔科 柴田 義浩 研究発表 *第2種滅菌技士認定更新単位取得講座		10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
16日(月)	19:00~20:30 第76回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
17日(火)	18:30~20:30 第12回 熊本がんフォーラム 「放射線治療の現況」 司会 魚住クリニック院長 魚住 秀昭 国立病院機構熊本医療センター放射線科 富高 悦司	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
18日(水)	19:00~21:00 第76回 最新医学の知識講座 座長 熊本市医師会 村山 英一 「遺伝性脳卒中」 熊本大学大学院医学薬学研究部神経内科学教授 内野 誠	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	17:00 消化器疾患カンファレンス C
19日(木)	19:00~20:30 第45回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図) 19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
20日(金)		18:00~21:00 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
23日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
25日(水)	18:30~20:00 第69回 救急症例検討会 「脳血管障害」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
26日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
27日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
28日(土)	13:30~16:30 第98回 看護卒後研修《会費制》 「個人情報保護法と看護情報」 鹿児島大学医学部保健学科看護情報学助教授 宇都由美子		
30日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
31日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 学校 看護学校  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)